



タバコ 受動喫煙 アンケート調査
分煙 意識

J10002 赤間 真也
指導教員 西村 直也

1. 概要

近年、分煙や受動喫煙に対する関心は高まっており、大学においても敷地内全面禁煙や完全分煙などの対策が必要になった。そこで本研究では喫煙者の意識と行動の傾向を把握、今後の本学における分煙対策の検討を目的としてアンケート調査を実施した。その結果、非喫煙者のタバコに対する意識や、喫煙者の意識と行動の差とその傾向が明らかになった。

2. 背景と目的

近年、喫煙者を取り巻く環境が禁煙化・分煙化によって刻々と変化を見せている。東京都千代田区が 2002 年に生活環境条例を施行したのをきっかけとして多くの都市が路上喫煙を禁止し、分煙対策が行われた。さらに 2003 年に施行された健康増進法やメディアによる受動喫煙の批判によって、神奈川県では 2010 年に受動喫煙防止条例が施行された。これにならい 2013 年に兵庫県でも「受動喫煙の防止等に関する条例」が施行されるなど、禁煙化・分煙化を進める動きがより強くなってきている。そして本学でも「キャンパス内完全分煙」を徹底する為、大宮キャンパスでは 2012 年 12 月 3 日より分煙ボックスが開所された。

本研究では大宮キャンパス、豊洲キャンパスに通う学生を対象としてアンケート調査を実施する。その結果、喫煙者の行動・意識を明らかにし、今後の本学における分煙対策のあり方を検討することを目的とする。

3. 調査手法

アンケート調査は 2013 年 10 月 23 日～11 月 20 日に実施した。本研究の目的は喫煙者の行動・意識の実態であるので、学年毎のアンケート結果があると比較・検討するのに望ましい。そこで、アンケート調査を実施する対象者は工学部建築学科を主とする 1～4 年とする。建築学科 1～3 年においては後期開講授業の内それぞれの学年を対象とする講義を抽出し、講義終了後にアンケート表を配り数分後に回収する。その他においては人文系の講義を抽出する。4 年においては、研究棟の各部屋を回り直接配布した後、約 30 分後に再度直接回収に回ることによって回収率の向上を図った。アンケートの概要を表 1 に示す。

表 1 アンケート概要

1. あなたの学年と性別を教えてください。
2. 今年の 4 月以降、学内において喫煙禁止な場所での喫煙を目にした事がありますか？
3. 普段タバコの煙が気になりますか？
4. あなたの喫煙状況についてお尋ねします。
5. なぜ喫煙しようとは思わないのですか？（複数回答可）
6. 禁煙した方、又はしたいと考えている方におたずねします該当する理由すべてに○をつけて下さい。（複数回答可）
7. 初めて喫煙した時期はいつですか？
8. 喫煙したきっかけは何ですか？
9. 禁煙にどのくらい関心がありますか？
10. 学内外を問わず、喫煙時は喫煙可能な場所で喫煙するよう心掛けていますか？
11. 学内外を問わず、実際に喫煙可能な場所で喫煙していますか？
12. 現在、学内での喫煙所について満足していますか？

4. アンケート調査結果

4. 1 喫煙状況について

図 1 に「あなたの喫煙状況についてお尋ねします。」という設問に対する学年別の集計結果を示す。「現在も吸っている」と回答した割合は 1 年では 8.7%、2 年では 15.0%、3 年では 19.7%、4 年では 25.8%と、学年が上がるにつれて割合が大きくなり、4 年では大体 4 人の内 1 人が喫煙していることがわかる。

4. 2 非喫煙者と喫煙者の意識の違いについて

図 2 に「なぜ喫煙しようとは思わないのですか？（複数回答可）」、「禁煙した方、又はしたいと考えている方におたずねします。該当する理由すべてに○をつけて下さい。（複数回答可）」という設問に対する集計結果を示す。「健康に悪いと思うから」と回答した割合は非喫煙者では 34.9%、喫煙者では 20.5%と、喫煙者より非喫煙者の方がタバコの危険性に敏感であることがわかる。「お金がかかるから」と回答した割合は非喫煙者では 30.3%、喫煙者では 50.0%と、喫煙者の方が割合は大きいことがわかる。2014 年 4 月以降消費税が引き上げられるのに合わせタバコの値上げも検討されるなど、近年タバコの値上げが著しい中、喫煙者において禁煙したい理由の半分は

「お金がかかるから」であることから、今後禁煙する人が増加すると考えられる。「他人の迷惑になるから」と回答した割合は非喫煙者では 17.2%、喫煙者では 8.0%と、非喫煙者が喫煙者の約 2 倍であることがわかる。「喫煙者に厳しい環境だから」と回答した割合は非喫煙者では 4.4%、喫煙者では 14.8%となった。

4. 3 意識と行動の差について

図 3 に「学内外を問わず、喫煙時は喫煙可能な場所で喫煙するよう心掛けていますか?」、「学内外を問わず、実際に喫煙可能な場所で喫煙していますか?」という設問に対する集計結果を示す。意識において「心掛けている」と回答した割合は 63.0%、「ある程度心掛けている」が 27.2%、「あまり心掛けていない」が 7.6%、「心掛けていない」が 2.2%となり、大半の喫煙者が心掛けている一方、行動において「必ずしている」と回答した割合は 27.2%、「ほとんどしている」が 50.0%、「あまりしていない」が 20.7%、「していない」が 2.2%となり、頻度を考慮に入れなければ喫煙可能な場所以外での喫煙をすると回答した割合は 70%を超えることがわかる。

4. 4 現在の喫煙所について

図 4 に「現在、学内での喫煙所について満足していますか?」という設問に対するキャンパス別の集計結果を示す。大宮キャンパスにおいて「満足している」と回答した割合が 34.5%、「ある程度満足している」が 51.7%、「あまり満足していない」が 10.3%となった。豊洲キャンパスにおいて「満足している」と回答した割合が 20.6%、「ある程度満足している」が 42.9%、「あまり満足していない」が 19.0%、「満足していない」が 17.5%となった。満足していない主な理由は「喫煙所の数が少ないため、距離が遠い」もしくは「屋根がないため、雨天時に困る」であった。

5. 結論

喫煙者の意識と行動について見てみると、大半の学生が意識通りの行動ができておらず、意識より行動の方が下回っているといえる。よって自分で「心掛けている」と思っているにもかかわらず、それ以上に意識を高く持つか、喫煙所の数を増やすなどの対策を講じなければルールを守ってもらうのは難しいと考えられる。

喫煙者に厳しい環境だと感じている割合が喫煙者の方が非喫煙者より約 10%も多いことから非喫煙者にとっては快適だと思う空間でも、喫煙者側からすると肩身の狭い思いをしている場合があることが想像できる。よって大多数を占める非喫煙者側の視点ではなく、喫煙者側の視点で対策を考え、喫煙者にとって快適な空間にすることが受動喫煙を防ぐことにも繋がる可能性が考えられる。

大宮キャンパスでは 86.2%の喫煙者が現在の喫煙所に対して満足していることから、分煙ボックスを開所した

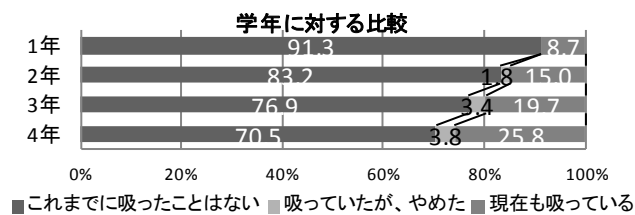


図 1 喫煙状況

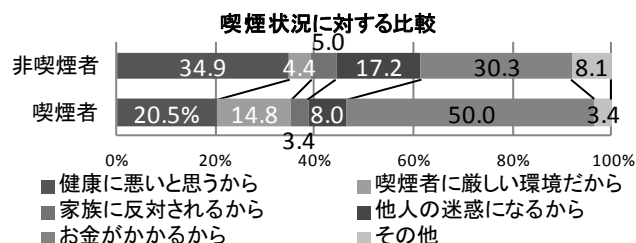


図 2 非喫煙者と喫煙者の意識の違い

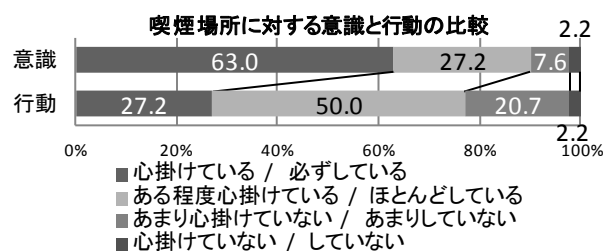


図 3 意識と行動の差

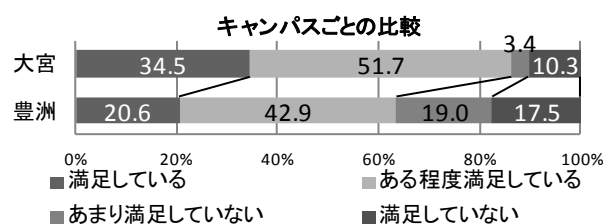


図 4 現在の喫煙所について

ことは効果があったと考えられ、「キャンパス内完全分煙」に着実に近づけたと考えられる。豊洲キャンパスでは、36.5%の喫煙者が現在の喫煙所について満足していないという結果から、今後喫煙者、非喫煙者双方にとってより良い空間にするためには、①喫煙者が雨天時でも困ることのないよう喫煙所に屋根を付けること、②特に喫煙所までの距離が遠い研究棟において対策を講じること、以上の 2 点が重要だと考えられる。

今後の課題として、喫煙者に対しての傾向は把握できたが、非喫煙者に対しての設問数は喫煙者に対しての設問数に比べ少なかった。そのため今後の調査では、さらに非喫煙者と喫煙者を比較できるよう、非喫煙者に対しての設問を増やす必要がある。

6. 引用・参考文献

- 1) 柳瀬厚子：兵庫県における受動喫煙防止に関する条例化の取組, 日本循環器学会専門医誌 循環器専門第 20 巻第 2 号 (2012)
- 2) 石井達郎：大学キャンパスのタバコ対策に関するアンケート調査, (2013)